

7月30日 地域の方々と学習会 ～歴史と文化の継承②～

【東濃森林管理署】

7月30日（木曜日）、東濃森林管理署において、裏木曽地域の森林・林業に係る歴史と文化について、地域の方々にもご参加いただき、現地学習会を行いました。

この学習会は6月に行った学習会に続くもので、今回は加子母裏木曽国有林へ出向き、現地で初代大ヒノキ、二代目大ヒノキ、森林鉄道跡、裏木曽御用材伐採式跡、名古屋城本丸御殿斧入式跡、護山神社奥の院等々を巡りながら、この裏木曽の山で、その場所でどのような営みが行われてきたのかを学びました。



初代大ヒノキ株を見る参加者

当日は、6月の事前学習の甲斐もあり、参加された方々は写真や話で聞くよりも、実際に現地で目の当たりにすると、その迫力を実感し、改めてこの地域の森林・林業の歴史や先人の方々の苦勞への理解を深めていました。

今回巡った箇所は、ほとんどが関係者（ガイド）の同行がなければ立ち入れることができない場所であり、裏木曽の奥深さを感じた学習会となりました。

参加された方からは、「地元こんな森林があったとは驚きだ。」

「唯一無二と言えるこの自然は、見る人を圧倒する魅力がある。地域の活性化につながれば良い。」等々の意見がありました。



ヒノキ・サワラ合体木を見る参加者



裏木曽の巨木を見上げる参加者

東濃森林管理署では、こうした国有林の魅力を活かした地域の活性化を地元の方々と共に進めたいと思います。